Nanase Letter

TOHOKU UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE
SENDAI・JAPAN
FOUNDED
1872

33

年2回発行

東北大学医学部学生後援会会報　ナナセレター

2024年9月発行

※「ななせ（七星）」とは、北の空に輝く「北斗七星」を意味し、北極星のような不動の真理を求め、さらに広く世人の道しるべとなろうとする本研究科・医学部の理念が象徴されています。

ご挨拶

2024年4月3日に行われた医学部入学者懇談会

国際卓越研究大学の認定に向けて

医学部長
石井 直人

文科省から、東北大学の計画が国際卓越研究大学の水準を満たしたとの発表があり、事実上の内定となりました。その結果、東北大学は国から大きな支援を受けることで25年後には世界トップ30の研究大学に生まれ変わることが運命づけられました。

医学部では、海外からも含めて優秀な研究者をリクルートすることや研究者養成の一大拠点となるための大学院組織の改革を開始し、医学部発のスタートアップやベンチャー企業を設立する準備を始めました。このような活動によって、研究に自ら投資することで大きな研究成果を生み出し、自ら新たな社会価値を創造できる未来型医学部の創出を目指します。皆様の益々のご協力とご支援をお願い申し上げます。

医学部生を学生後援会として一緒に応援を

医学部学生後援会会長
黒澤 一

今年も昨年に引き続き天候などによる災害のニュースがありましたが、幸い、大学の方は何事もなく学生さん達が勉学に励む毎日です。東北大学医学部学生後援会は医学部医学科および保健学科の学生さんの保護者の会です。自分の学生時代から考えれば隔世の感ですが、大学でも保護者の会があるかと当初はびっくりしました。しかし、自分の子どもを含む一生懸命な学生さん達をみているうちに、保護者の温かい目があるのは学生さんにもよいことと思うようになっています。

現在の後援会の加入率は71％ということですが、未加入の保護者の方々には、私どもと一緒に学生さん達の応援の輪に加わっていただければと存じます。今年度も後援会の活動にご理解ご支援を賜れましたら幸いに存じます。

Essay

医学部長のお仕事

医学部長の仕事と言えば皆様は何を想像するでしょうか。巨大なお金を動かして大きな権力を振るう姿を思い浮かべた方はドラマの見過ぎかもしれません。意外と思われるでしょうが、医学部長の最も重要な仕事は「教授選考」です。教授は、その研究室/診療科の全権を任され、定年まで20年程度の期間、その責務を担当します。したがって、優れた人物が選ばれればその研究室/診療科は繁栄することになり、万が一選考を誤るとその研究室/診療科が停滞する可能性もあります。医学部長は「教授選考」の責任者として、毎年、5人程度の新教授を選考しますが、その結果によって20年後の東北大学医学部の運命が決まるのです。重要な仕事だと思いませんか。

Essay

オープンキャンパスにおける医学部生の活躍

2024年7月30･31日に東北大学オープンキャンパスが開催されました。星陵キャンパスにもたくさんの参加者が来場されました。在校生保護者にとっても、入学前に参加したことがある行事の一つだったかもしれません。私は昨年に引き続き、模擬講義を担当し、専門の内容に加えて、学生さん達の研究成果やプロジェクトなど、日々の生活や活動の一端を紹介させていただきました。興味深い面持ちで聴講してくれましたし、講義が終わってからも目を輝かせて質問しに来てくれる高校生達は、将来の医学部生として非常に頼もしく見えました。なお、企画と運営は医学科と保健学科の在校生達が大いに活躍しています。高校生を率先して誘導し指導する姿は、さらに一層、頼もしい感じがしました。

オープンキャンパス2024実行委員のメンバー

国際卓越研究大学の中心となる世代へ

医学部医学科長
高瀬 圭

医学部生の保護者の皆様、日頃より医学部の教育研究活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。本学はこれから、国際卓越研究大学として多様な高度人材の輩出を目指して、大学院生および留学生の増加と国際的に活躍できる能力に主眼を置いた共修環境の整備等が行われていくことになります。医学部でも25年後（2049年）の到達目標に向けての壮大な変革期を迎えると思います。現在の医学部生はまさにその時、本学の指導的立場に立つ世代です。多様な経験と学修のできる環境を提供しながら魅力ある教育を行い、世界に羽ばたく人材を育てて行きたいと存じます。

引き続き、保護者の皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

戻ってきた日常とキャンパスに響く元気な声

医学部保健学科長
本間 経康

日頃より保健学科の教育研究活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。世の中と同様、大学も学生さんの元気な声が戻ってきて、年度末には対面での謝恩会が復活し、卒業生の門出を祝うことができました。

2024年度の保健学科は4月に新入生151人を迎えスタートしました。看護学専攻72人、放射線技術科学専攻39人、検査技術科学専攻40人の新入生は講義や部活・サークル活動を通じて、学部内外の学生さんと交流し東北大学での生活を満喫しています。在学生も以前の大学生活に戻り、先日もオープンキャンパスで活躍してくれました。次世代の医療を牽引する人材を養成すべく教職員一同努力してまいりますので、今後ともご支援よろしくお願いいたします。

大学行事・カリキュラム（2024年度後期）

9月	11日	保3年　放射線技術科学専攻ウェアセレモニー
	27日	保3年　検査技術科学専攻ウェアセレモニー
10月	23・24日	医6年　卒業試験（筆記）本試験
	25～27日	大学祭　※川内キャンパス
11月	21日	医2年　東北大学・東北医科薬科大学 合同慰霊祭・合同遺骨返還式
	25日	医4年　臨床修練説明会・キャリアパス懇談会
12月	19・20日	医3年　基礎医学修練発表会
1月	17日	医5年　マッチング説明会
	24日	艮陵協議会加盟病院説明会
2月	3日	医4年　白衣式 （新5年）
	13・14日	退職教授最終講義
3月	25日	学位記授与式・学位記伝達式 ※謝恩会

助成行事のご報告

医学部学生後援会が助成しました

2024年3月から2024年8月に東北大学医学部学生後援会が助成した行事等をレポートします。

4/3（水）
東北大学医学部入学者懇談会

医学部医学科長
高瀬 圭

午前中の東北大学入学式に引き続き、午後に星陵キャンパスにて医学部入学者懇談会を行いました。

大和田祐二副学部長司会の全体会では、医学部長、病院長、学生後援会会長の挨拶と医学部および学生後援会の役員を紹介。その後は医学科、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の各専攻に分かれて説明会が行われました。教員から歴史や理念、カリキュラム等概要説明、学生からは歓迎メッセージと学生生活説明が行われました。医学科では、教員側から私が「医学科紹介」を、石井正教授が「医学科のキャリアパス」を説明しました。6年生の吉町文子さんには、「医学部生からの歓迎メッセージ」と題して、厳しくも充実した6年間のカリキュラム、部活動や研究活動との両立について、熱くわかりやすい圧巻の発表をしていただきました。「医学科で6年間勉強すると教授よりも上手に発表できることが証明されたと思います」と保護者の皆様に述べると、笑いと共にご納得いただけたようでした。

その後は、懇談と星陵キャンパス見学となり、「東京の進学説明会で相談させていただきましたが、無事に入学いたしました」とお声がけいただいたり、図書館（医学分館）見学で「恵まれた環境で勉強できるんだなあ」と言っていただいたりしました。今回は、379名にご参加いただきましたが、今後も保護者の皆様に医学部をより深く知っていただく機会を設けていきたいと存じます。ご参加いただければ大変ありがたいです。

❶石井直人医学部長挨拶 ❷張替秀郎東北大学病院長挨拶 ❸懇談の様子（大和田祐二医学部副学部長と新入生） ❹高瀬圭医学科長と石井正教授による医学科紹介

2024 3月 3/26 4月 4/3 4/18 5月 5/25 6月

3/26（火）
保健学科謝恩会

医学部保健学科第17期生謝恩会幹事
医学部保健学科検査技術科学専攻卒業生
宇部 遼太

医学部長の石井直人先生、保健学科長の本間経康先生よりご祝辞と乾杯の音頭を賜り、会が始まりました。講義や実習、卒業研究などさまざまな場面でお世話になった先生方、実習をさせていただいた病院・施設から大勢の方々にご出席いただき、学生から4年分の感謝の気持ちを伝え、思い出話に花を咲かせました。

新型コロナウイルス感染症により多くの制限を受けながら過ごした大学生活となりましたが、先行きが見えない事態の中、さまざまな対応を施しご講義してくださった先生方、実習を受け入れてくださった病院や施設の皆様にあらためて感謝申し上げます。

就職、大学院進学など学生の進路はさまざまですが、東北大学で学んだことを忘れず努力を継続していく所存です。

❶ 看護学専攻
❷ 放射線技術科学専攻
❸ 検査技術科学専攻

4/18（木）
保健学科看護学専攻ウェアセレモニー

医学系研究科 看護技術開発学分野 講師
丹野 寛大

保護者の皆様におかれましては、日頃よりご支援をいただき誠にありがとうございます。

保健学科看護学専攻のウェアセレモニーでは、石井医学部長、浦山看護部長、黒澤医学部学生後援会会長、本間保健学科長、宮下専攻主任から激励の言葉とともに、医学部のロゴマークである北斗七星が刻印された記念バッジが贈られました。学生代表としてバッジを授与された北そらさんが実習に臨む決意と抱負を述べました。

記念バッジは宮内庁御用達の歴史をもつ安藤七宝店で作成されています。毎年異なる色でバッジを作成しており、12色目となる今回は、学生さん達の可能性を連想させるような白を採用しました。例年以上の美しさだと学内で話題になっておりますので、実習への決意を胸にしたお子さんの姿とともに、ぜひバッジをご覧いただければ幸いです。

❶星陵オーディトリアムで行われた看護学専攻ウェアセレモニー ❷宮下光令専攻主任よりバッジを授与される北そらさん ❸北斗七星のロゴマークが刻印されたバッジ

ウェアセレモニー決意表明 →P.6

5/25(土)

東北大学懇談会 医学部分科会

医学部副学部長

大和田 祐二

2024年5月25日に東北大学懇談会が開催されました。川内萩ホールで実施された全体会に引き続き、星陵キャンパスで行われた医学部分科会には、56名の保護者の方々にご参加いただきました。

分科会では、教員による医学部の概要説明、医学科および保健学科の学生さんによる学生生活についてのプレゼンをご聴講いただいた後、東北メディカル・メガバンク機構、クリニカル・スキルスラボ、臨床講義棟など、国内トップレベルの医学研究・教育の現場をツアー形式で見学いただきました。また、基礎系・臨床系教員や学生とのコーヒーブレイクでは、カリキュラムや卒業後の進路、クラブ活動などについて、ざっくばらんなご質問やご意見を頂戴することができ、私ども教員にとっても、とても有意義な機会となりました。

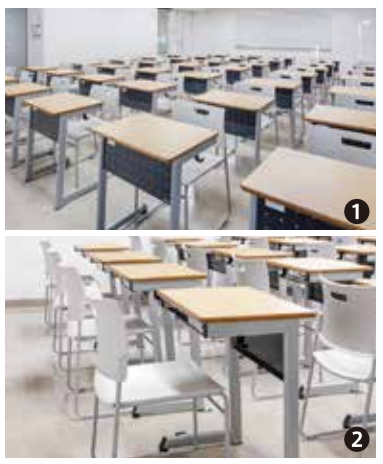
❶教員紹介 ❷学生さんのプレゼン ❸クリニカル・スキルスラボの見学

保健学科講義室 机・椅子の更新

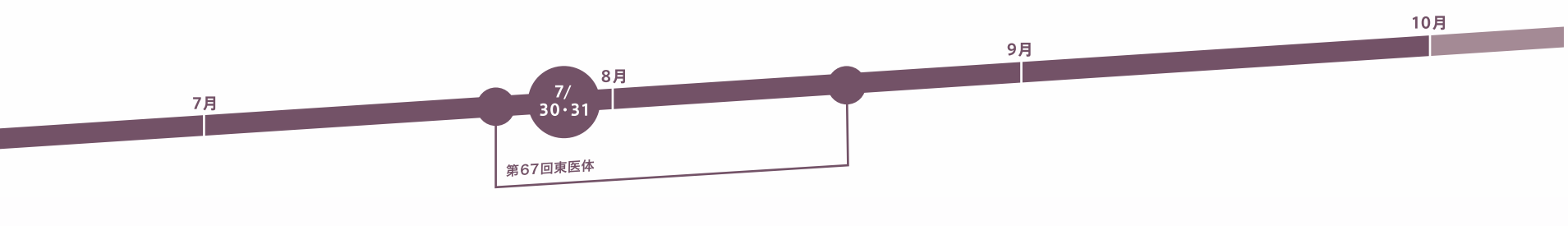
医学部保健学科長

本間 経康

医学部学生後援会のご支援により、医学部保健学科A棟の講義室において、2022年度からの3年間で机と椅子の更新が進んでおります。これまでに第一講義室80台が新調されました。本年度も新たに40台が予定されています。従来よりも椅子が軽量になり、机の下肢空間が広くなったため、離着席がしやすくなったほか、机には高さを微調整できる機能が付いています。今回の新調により、利便性が向上するとともに、講義室が明るい空間へと生まれ変わり、学生の集中力が高まる効果も期待できます。あらためましてご支援に深く感謝いたします。誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。



❶講義室 全体
❷講義室 机・椅子



7・8月

第67回東医体

第67回東医体東北大学運営部 副運営部長

医学部医学科4年

中村 彩水

東医体公式

第67回東日本医科学生総合体育大会(略称:東医体)では東北大学医学部がソフトテニス、卓球、バドミントン、柔道、ボート(合同)、ハンドボール、スキー競技(冬季)の主管を務めています。7・8月に行われた夏季競技は全て終了し、各競技の実行委員も私ども運営部も、達成感に満ち溢れているところです。東医体東北大学運営部は、東北大学艮陵同窓会様、東北大学医学部学生後援会様からのご寄付を運営資金とし、各競技の運営準備のサポートをしてまいりました。ご援助を賜りました皆様のご理解とご協力に、厚く御礼を申し上げます。今回の東医体はコロナ明け2度目の大会であり、各競技が昨年よりもさらに熱く盛り上がりました。引き続きスキー競技開催への準備や夏季競技決算報告等を行い、東医体閉会式まで駆け抜けていきます!

❶東医体東北大学運営部集合写真 ❷ 話し合いの様子 ❸7月28日 開会式会場にて(左:運営部長 徳永莉子さん、右:副運営部長 中村彩水さん)

7/30(火)・31(水)

オープンキャンパス2024

東北大学医学部
オープンキャンパス
公式

七夕をモチーフに、オープンキャンパス実行委員会がデザインしたオリジナルTシャツ。医学部学生後援会がTシャツ製作代の一部を助成しています

オープンキャンパス前日の医学科と看護学専攻が共同で行う救急体験のリハーサルの様子

オープンキャンパスレポート →P.7

医学部 NEWS & TOPICS

艮陵同窓会150周年記念庭園

（ごんりょう）

竣工：2024年3月 開園：2024年5月

艮陵同窓会150周年記念庭園プロジェクト委員
医学系研究科 遺伝医療学分野 教授
青木 洋子

2022年1月26日に前研究科長の八重樫伸生先生のもとで、第1回150周年記念庭園整備プロジェクト会議が開催されました。会議に先立ちプロジェクトにご参加いただける学生さんが募集され、有志の5名の方が手を挙げてくれました。会議でどのような庭園が欲しいか意見を交換しましたところ、学生さんからは「友達と一緒にランチが食べたい」、八重樫伸生先生からは「アメリカの大学のように芝生の庭がいい」などの意見がだされ、各自そのイメージを紙に記載し提出しました。その後2回の委員会を経て、庭園のデザインが出来上がり、工事が行われました。

「星陵の丘」：星陵会館西側の南側の松は計画伐採周期を超えたために伐採され、芝生の丘を作りベンチを配置しました。「星陵の丘」に集う学生、教職員の未来が無限に広がるように、との期待が込められています。

「掬水(きくすい)の池」：庭園北側の掬水(きくすい)の池は昭和50年、石田名香雄元医学部長の依頼で、黒川利雄元東北大学長によって『全唐詩』の中の于良史の詩「春山夜月」の一節「掬水月在手、弄花香満衣」から命名されました。戦前は四ツ谷用水から水を引いていたと言われます。今回の整備では、サクラ、モミジなどの四季を彩る原風景を維持しながら、橋の欄干を赤く塗り替え、ベンチを設置しました。

星陵キャンパスの中には、掬水の池の他にも、旧宮城病院正門、ヒポクラテスの木、6号館前のイチョウの木など、歴史ある建造物や樹木が残っています。学生さんや後援会の方々にもぜひ星陵キャンパスの歴史を知っていただき、本学に親しみを持っていただければと思います。

❶星陵の丘 ❷掬水(きくすい)の池 ❸5月16日に行われた開園式。右から青木洋子教授、石井直人医学部長、正宗淳教授 ❹ベンチでくつろぐ学生さん達

Tohoku University

White Coat Ceremony

ウェアセレモニー

医学部保健学科では3年次に行う臨地実習の開始前にウェアセレモニーを実施。学生は実習服を着衣し、医療現場で実習する意識を高めその決意を教職員や家族の前で表明しています。

ウェアセレモニー 決意表明

2024年4月18日(木)
東北大学星陵会館 星陵オーディトリアム講堂

医学部保健学科看護学専攻３年
北 そら

「決意表明の言葉に先立ちまして、今回のウェアセレモニーや領域別実習の企画・運営に携わっていただいている皆様に、この場をお借りして心より深く御礼申し上げます。

さて、今セメスターより、待ちに待った領域別実習が始まります。これまで、授業や学内での演習を通じて、さまざまな知識や技術を身につけてきました。加えて、2度にわたる基礎看護学実習においては、実際に看護計画を立案し、患者さんに対してケアを提供してきました。実習では、これまで培った知識や技術をフルに活用し、ときには看護師の方々から助言をいただきながら、患者さんに寄り添った看護やケアとは何かを自分たちなりに考え、主体的に実習に取り組むことができたと思います。病院という臨床の場において実習を行わせていただいたことで、授業や学内演習では得られないことをたくさん学び、経験することができ、充実した実習となりました。その一方で、やりきれなかったと感じる部分や反省点が多くあったこともまた事実です。領域別実習では、それらの反省を十二分に活かしながら、患者さんのケアや看護にあたり、さまざまなスキルをさらに磨いていきたいと思います。

また、領域別実習では、それぞれの領域に特化した看護を学ぶため、基礎看護学実習と比較して学ぶべきことが多く、実習以外での学習がより重要となります。実習を有意義なものとするためにも、自主学習を怠ることなく、日々研鑽に励んでいく所存です。

そして、世間では、新型コロナウイルスが落ち着いていると認識されていますが、病院は常に感染症と隣り合わせです。これまでの実習通り、感染源を持ち込まない、持ち出さないことを心に留め、スタンダードプリコーションを徹底していきたいと思います。

実習中、つらくなったり、落ち込んだりすることもあると思いますが、そんなときには仲間たちと励まし合い、互いに高め合っていきたいと思います。常に、患者さんやそのご家族、医療従事者の皆様のご協力のもとに実習が成り立っていることを忘れず、患者さんにとってもっとも良い看護を提供することを心がけていく所存です。

卒業後、看護師として活躍する上で重要な知識や技術を身につけ、看護に携わる者としても、人間としても大きく成長し、実習後には自らのちからに自信が持てるよう、日々全力で実習に取り組んでいくことを誓いまして、決意表明の言葉とさせていただきます。」

東北大学医学部 オープンキャンパス2024レポート

来場者数：2024年7月30・31日の2日間で4,516名

医学部オープンキャンパス推進委員会委員長
医学系研究科 病態病理学分野 教授
古川 徹

今年のオープンキャンパスの医学部への来場者は2日間の合計で4,516名でした。医学科、保健学科とも学生が主体となって企画した構内案内ツアーや体験プログラム、模擬講義、学生相談や、特別企画としてエコチル調査センター、東北大学病院先端医療技術トレーニングセンター、加齢医学研究所、東北大学図書館医学分館、東北メディカル・メガバンク機構の展示・案内ツアーも催され、盛りだくさんの内容で大変盛況でした。私が行った模擬講義でも大変熱心に聴講していただき、聴衆は高校1年生でしたが、医学への関心の高さがひしひしと感じられました。

また、参加高校生に、医学部卒業生の初期研修医、医学部6年生を加えたパネルディスカッションでは東北大学医学部の「診療する科学者」育成をポリシーとする特色あるカリキュラムの内容や医学部生の生活、また、受験について、さらには、医師に求められる資質や東北大学医学部を卒業して医師になることの意義などについて幅広い討議が行われました。全国から集まった東北大学医学部への進学を考えている高校生に東北大学医学部の魅力をアピールでき、東北大学医学部を本格的に目指してもらうきっかけになったのではと思います。

❶医療スキル体験・外科（医学科） ❷❸医療スキル体験・内科（医学科と看護学専攻共同）

医学科オープンキャンパス実行委員長
医学科3年
伊藤 紗会

私は「学生と語ろう・入試相談会」の企画も担当していたのですが、実行委員やボランティア、先生方のご協力もあり円滑に運営することができました。丁寧に相談に乗るスタッフの姿が印象的で、高校生や保護者から感謝の言葉をいただいた時は嬉しかったです。

保健学科オープンキャンパス実行委員長
保健学科検査技術科学専攻3年
佐々木 心

今年度も看護、放射、検査の3専攻で協力して、参加者の皆様が保健学科での学びを体感していただける内容をつくることができました。高校生の意欲的な姿や、それに刺激を受けて説明や紹介に熱が入る学生の様子が印象的でした。来場者が多く嬉しかったです。

2023年度東北大学白菊会 鹿野記念奨学奨励賞・笠原賞 授賞式

日時：2024年5月28日（火） 場所：仙台国際センター

「鹿野記念奨学奨励賞」「笠原賞」とは

東北大学白菊会は、2011年度より優秀な学生を表彰する「東北大学白菊会鹿野記念奨学奨励賞」を創設しました。成願会員（亡くなった会員）の方のご遺志により、肉眼解剖学を柱に全体の成績を加味し、医療に高い志を持ち、将来医療人として活躍が期待できる学生に対して表彰を行っております。

また、「笠原賞」は、東北大学医学部医学科および東北大学歯学部並びに東北医科薬科大学医学部に在籍する学業成績優秀、且つ高い倫理観を兼ね備えた5、6年生で、将来、医療人として活躍が大いに期待される学生に贈られます。

鹿野記念奨学奨励賞
医学部医学科3年
井田 晴一朗

解剖実習を終えて

鹿野記念奨学奨励賞をいただき、大変光栄に思います。

解剖実習を通して、精緻で複雑な人体の構造を仲間と協力して一つ一つ解き明かしていくことは、非常に充実した貴重な経験でした。

これからの学びにおきましても、人体を正確に理解し、さらにその知識を人の命を救うことに役立てられるよう、精進を重ねてまいります。

鹿野記念奨学奨励賞
医学部医学科3年
王谷 真比呂

「東北大学白菊会 鹿野記念奨学奨励賞」を受賞して

昨年の解剖学実習は多くの方に支えられ、大変貴重な学びの機会となりました。心より感謝しております。人体の構造や仕組みなどを実際に触れながら観察し理解を深めるとともに、ご献体の生きた証を自分の目で確認し、覚悟や責任も学びました。今回感じた命の尊さを忘れず、将来医師として患者さん一人一人の人生に向き合い、より豊かにできるよう、これからも精進してまいります。

笠原賞
医学部医学科6年
三輪 恭菜

「東北大学白菊会 笠原賞」を受賞して

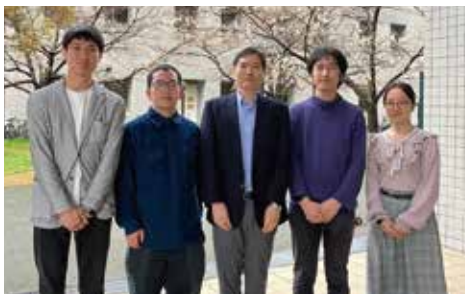
この度、このような名誉ある賞を賜ることができ大変光栄に存じます。臨床実習を通して、私は患者さんの社会的背景を考慮する姿勢の大切さを感じました。そのため、家庭や地域での生活を想像して診療にあたるよう心掛けていきたいと思います。そして、多職種の方々に協力を仰ぎながら、これからの医療を担う者として精進してまいります。

サークル紹介

艮陵新聞学生編集部（ごんりょう）

新聞記事を通じて先生や学生の医学に限らない活躍を届ける

部員数：7人
活動場所：部室や自宅などで各自執筆
活動（発行）：年4回程度（4月、7月、10月、1月発行）



艮陵新聞学生編集部では、卒業生の先生方向けに年に4回艮陵新聞を発行しています。取材先の先生や学生に連絡を取るところから、記事を完成させるまで部員が主体となって行っています。また、部員が作った記事を新聞社の方に見ていただき、レイアウトや言葉の使い方、見出しの付け方などのアドバイスをいただいて、新聞としてより読みやすいものになるよう心がけています。例えば、小見出しと呼ばれる小さめの区切りは、文字数や大きさを揃えてつけています。長期休暇には、行脚取材として遠方の先生に取材をしに行きます。ちょっとした旅行のようでもあり、楽しみにしている部員も多いです。

学生のことについての記事も掲載していますので、ぜひ一度お手に取っていただけますと嬉しいです。

医学部医学科4年　**小久保 璃奈**

東北大学医学部ヨット部

仲間とともに青春の航路を描く！

部員数：33人
活動場所：閖上ヨットハーバー
活動日：土・日曜、祝日

東北大学医学部ヨット部では、470級という2人乗りのヨットに乗っています。シーズンは3月～11月。週2回、名取市にある閖上（ゆりあげ）で練習しています。夏に江ノ島で行われる東医体や、秋の北医体のほか、東北個戦、北日本オープン等にも参加しています。

2011年3月11日の東日本大震災により、以前活動していた名取市の閖上ヨットハーバーは壊滅し、ヨットや備品のほぼ全てを失いました。その後、多くの方々や団体からご支援いただき、活動を再開することができました。今後も応援よろしくお願いいたします。

主務 医学部医学科2年　**相本 高輝**

“学食”星陵食堂より

医学部生の健康を支える学食情報をご紹介します

星陵会館1階にある星陵食堂は、艮陵同窓会150周年記念庭園を見晴らす明るくアットホームな雰囲気。「星陵食堂は朝8時から営業し、朝食にも力を入れています。サバ味噌やシチュー、根菜煮、ハムカツなど一人暮らしでは作るのが大変そうなメニューを朝定食でお召し上がりください」とお話しいただいたのは、食堂勤務31年目の名物スタッフ、石井みやこさん。星陵食堂は、朝8時～9時、昼11時～14時、夜17時～19時30分と、営業時間が長いのも特徴です。

石井みやこさん

圧倒的人気！　定番

自家製カレー

(中) 341円

東北大学全体で1日約2,000食、星陵食堂でも1日約150食が出るという不動の人気メニューです。その歴史は古く、1967年から2008年に川内キャンパスの学食で提供されていた「貧食カレー」と呼ばれ親しまれていた普通カレーがルーツ。野菜がゴロゴロ、コクがあってボリューム満点のカレーです。

10月にも実施します　イベント

「100円朝食」

100円

5月27～31日に行われた「春の100円朝食」期間、朝食を食べる学生さんが10倍増えたという人気のイベント。目に優しい「論文レシピ®」からのメニュー、サバと彩り野菜の黒酢あん定食や麻婆豆腐定食、朝カレーなどが100円で提供されました。10月にも「秋の100円朝食」を実施します。メニューはお楽しみにしてください。

サバと彩り野菜の黒酢あん定食

星陵食堂での「100円朝食」は医療機器商社のテスコ株式会社様からのご寄附により実施されています

【編集後記】

皆様、ようやく酷暑も過ぎ、涼しさが感じられる今日この頃です。東北大学医学部学生後援会会報ですが、装いも新たにナナセレターとして生まれ変わりました。本号では以前の号に比べて版が大きくなり、その分多くの写真を掲載することが出来ました。また、新しい試みとして親御さんが知りたいと思われる情報（大学行事・カリキュラム日程や“学食”星陵食堂より等）も新たに組み込みました。今後、編集部は皆様にさらにご満足いただけるような会報にするべく努力を重ねていく所存でございます。皆様のご感想・ご意見をお待ちいたしております。

医学部学生後援会会報 ナナセレター 編集委員長
医学系研究科 分子内分泌学分野 教授　**菅原 明**

Nanase Letter
東北大学医学部学生後援会会報 ナナセレター
第33号 2024年9月発行
本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為はご遠慮ください。
発行　東北大学医学部学生後援会
編集　東北大学医学部学生後援会会報 ナナセレター編集委員
デザイン　デザインマトカ
印刷　高橋写真製版

東北大学医学部学生後援会事務局
〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1
TEL：022-717-7870
med-koen@grp.tohoku.ac.jp
©東北大学医学部学生後援会

東北大学医学部学生後援会 ウェブサイト
http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/index.html

東北大学大学院医学系研究科・医学部 ウェブサイト
https://www.med.tohoku.ac.jp/

X
東北大学大学院医学系研究科
@tohoku_univ_med

Facebook
東北大学大学院医学系研究科・医学部
@Tohoku.University.School.of.Medicine